

# DOCUMENT EYE

127

混合交通を観察する

**法制化から4ヶ月、チャイルドシートの使用状況は?**

2000年4月1日より、幼児(6歳未満の者)をクルマに同乗させる際には、保安基準に適合および発育の程度に適合したチャイルドシートの使用が義務付けられた。

4月の法制化を境に、チャイルドシートの利用率は高まっているようだが、実際はどうだろうか? 子どもたちとクルマで出掛ける機会が多くなる

WHY



観察地点 / 神奈川県川崎市多摩区菅仙谷4丁目 遊園地駐車場の出入口付近  
 観察日 / 8月11日(金曜日)  
 天候 / 快晴  
 観察時間 / 16:35~17:35  
 観察者 / 5名

## 法制化4カ月後、チャイルドシートを使用していた 6歳未満とみられる幼児、152名中51名

夏休みに、プールのある遊園地の駐車場出入口付近で、チャイルドシートの使用状況と同乗者のシートベルト着用状況を観察した。

観察は8月中旬の平日の夕方、川崎市北部にあるプールを併設した遊園地の閉園時間頃に、駐車場出入口付近で行なった。この日は快晴で、気温も33度台に上

WATCHING

チャイルドシートが習慣化し、幼児はおとなしく座っていた

すでに夏休みに入っている人も多いようで、家族連れや友人同士、カップルなど多くの人がクルマでやってきていた。子どもたちの姿も数多く見かけ、チャイルドシートを装着しているワゴン車や乗用車も目立った。東京や千葉など近隣県ナンバーのクルマが多かったが、中にはお盆休みで帰省中らしい山陰や九州ナンバーも見かけた。駐車場は7~8割方埋まっていた。

1時間の観察時間中、6歳未満と思われる幼児が同乗していたクルマは合計90台だった。別表のように6歳未満と思われる幼児は、合計152名。内訳は、チャイルドシートの使用が51名、不使用が92名、うち膝のせが8名、大人用のシートベルト着用が9名だった。このほか、クルマにチャイルドシートを装着していながら使用していなかった例が助手席1、後部座席2の計3名分だった。

駐車場でクルマに乗り込むまでを観察したところ、チャイルドシートに子どもを乗せる役は父親、子どもをあやすのが母親である場合が多かった。また、チ



6歳未満の幼児のチャイルドシート着用状況(名)  
 (90台・幼児152名中)

		チャイルドシート	シートベルト	小計	計
着用	助手席	10	7	17	60
	後部座席	41	2	43	
非着用	助手席 (うち膝のせ6)	13	—	13	92
	後部座席 (うち膝のせ2)	79	—	79	

チャイルドシートを装着している箇所は後部座席が多かった。すでにチャイルドシートの使用が習慣になっているのか、子どもたちは特に嫌がる様子もなく、おとなしくチャイルドシートに座っていた。

一方、幼児が先に車内に入ってしまった場合には、チャイルドシートを使用しないケースが多く見受けられた。

数家族が1台のクルマに同乗していた場合、人数分のチャイルドシートが用意されておらず、幼児たちのうち何人かは使用していたとしても全員が使用することとは難しいように感じた。また、帰省した際に実家のクルマを利用する場合も、チャイルドシートが用意されていない場合が多いのではとも思われた。

小学生以上と思われる子どもや大人の場合、助手席側に座った39名中35名がシートベルトを着用していた。シートベルトおよびチャイルドシートの使用が、子どもを持つ家庭に浸透してきているようだった。

PROPOSE

チャイルドシートはあつて当然、ないと不安になるくらいの意識を

今回の観察の結果、父親は取り付け、母親が子どもをあやすなど家族間でチャイルドシートの取り付けに対する役割分担ができあがっているように思われた。また、幼児にとってもすでに習慣となっている場合が多いように感じられた。

しかし、自分のクルマにはチャイルドシートを装着していても、他人の親子が乗車する場合は、チャイルドシートの数が不十分、簡単に装着できないなどの理由で、そのまま走行するクルマが目立つた。

クルマに同乗するすべての子どもたちの安全を確保するのは、ドライバー、そして親の義務である。チャイルドシート使用は当然、ないと不安になるくらいに親の意識が変化すれば、チャイルドシートの使用はさらに浸透するだろう。

